

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月18日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 4592200010 | | |
| 法人名 | 有限会社鶴鳩 | | |
| 事業所名 | グループホーム逍遥亭 | | |
| 所在地 | 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所10547-1 (電話) 0982-82-0267 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市原町2番22号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年8月18日 | 評価確定日 | 平成21年9月18日 |

【情報提供票より】(平成21年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|---------------------|-----|
| 開設年月日 | 昭和・平成19年9月23日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算9人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|------|
| 建物構造 | 木造 造り | |
| | 1階建ての | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 円 |
| 敷金 | 有(円) | (無) | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成21年7月25日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 0名 | 女性 | 9名 |
| 要介護1 | 2 | 要介護2 | 4 | | |
| 要介護3 | 1 | 要介護4 | 2 | | |
| 要介護5 | 0 | 要支援2 | 0 | | |
| 年齢 | 平均 81.4歳 | 最低 | 77歳 | 最高 | 86歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 五ヶ瀬町立国民健康保険病院 |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業】

居ながらにして森林浴が楽しめる、自然環境に恵まれたグループホームである。玄関には花が咲き乱れ、鍵のない自由な雰囲気である。一步中に入ると採光の行き届いた明るく広々としたロビーがあり、利用者の方々の笑顔と大きな声のあいさつが飛び込んでくる。「ゆっくりゆったりいつもいっしょ、わが家気分がマイペース」をモットーに、認知症のケアに熱心に取り組んでいる笑顔の職員の姿があった。食事はホームの畑で収穫した食材を調理し、全員が同じテーブルを囲んでいる様子は、和気あいあいとしていた。訪問日の朝、野菜を取りにいく利用者の明るい声が、朝の光の差す木々の間に響いていた。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善となった項目は、災害対策、地域とのつきあいへの取り組みであったが、災害対策は、消防団や警察による定期的な指導を受け、全職員で適切な災害時の対策に取り組んでいる。地域とのつきあも、ホームから地域へ出かけて行ったり、ホーム内に地域の方も利用できる休憩所を作るなどの取り組みがなされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、全職員が自己評価の意義を十分理解しており、今回の自己評価も一人ひとりの職員がまず評価に取り組み、それを持ち寄ってミーティングをしている。評価項目をケース討議の参考にする事で、サービスの質の向上に生かされている。</p> |
| | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に行われる運営推進会議では、事業所内で行われる行事や、利用者の活動内容を写真入りの資料で細かに報告している。参加者からは地域内の行事、災害対策やその他介護保険について理解できないこと等、さまざまな意見が出され地域との交流にも多に役立っている。討議された議題は施設長から全職員に伝達され、記録簿には捺印もされている。</p> |
| 重点項目② | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関には苦情受けつけ窓口や、気づきポストが設置されている。家族との交流に力を入れ、意見・苦情等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、ホーム自身でも改善点を探り、サービスの質の向上に努めている。</p> |
| 重点項目③ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームは高台にあり隣近所が遠いため、利用者と職員で作った飾りや小物に季節のあいさつ状を添えて近隣に出かけ交流を図っている。地域の一員として祭りに参加したり、中学生ボランティアや見学を受け入れ、地域の方と利用者が交流できるように工夫している。さまざまなアイデアと工夫で、地域づくりに励む施設長、管理者、職員の努力が利用者の笑顔につながっている。</p> |
| 重点項目④ | |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「ゆっくりゆったりいつもいっしょ、わが家気分マイペース」をモットーとして地域との交流を図りながら、その人らしさを尊重し安心した生活ができるよう事業所独自の理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は理念を共有できるよう、ミーティングや研修を常に行い、毎朝の引き継ぎで唱和するなど実践に向けて積極的に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の祭りへの参加、中学生のボランティア、ホームの見学受け入れ等を行っており、全職員で交流に努めている。また、最近では地域の方から「何か手伝うことがあったら」と声をかけていただけるようになった。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員一人ひとりが自己評価に取り組み、それを持ち寄って全職員で評価を作成する等、評価を実施する意義を理解し熱心に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に運営推進会議が行われており、会議で討議された内容は管理者から職員に報告されている。全員の捺印もあり、熱心に取り組む姿勢が感じられた。会議に参加した人がわかりやすいように、事業所の内容を写真入りの資料で説明している。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | ホーム発行の広報紙（逍遙日和）の配布や毎月開催されるケア会議への出席、役場に足を運び担当者と認知症について理解と協力をお願いしたり、町の役員の人達と現状と今後の取り組みについて話し合う機会がある。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 利用者の利用料金についての使用内訳と、近況の暮らしぶりを写真入りで3か月ごとに報告し、家族に喜ばれている。利用者個人の預かり金は、出納帳を月ごとにまとめ、家族の面会の折に印鑑をもらっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情受け付け窓口や、気づきポストの設置があり、利用者と家族が意見を出しやすい環境づくりに努力している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動は極力しないように努めているが、やむを得ない離職については事前に利用者に伝え、職員全員でコミュニケーションを図り、ダメージを与えないよう細やかな支援を行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修には施設長が自ら運転する車に職員を乗せて参加したり、声かけを積極的にし研修受講の機会を多くつくっている。毎日の業務の中でも施設長や管理者が気づいたことは、その日に指導を行う等、しっかりした体制の中で業務に取り組んでいる。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流は頻繁に行っており、学んだ情報を職員間で共有し、質の向上に向けて努力している。同法人のグループホーム（鶴鴿）とは定期的に事例発表や研修会を設け相互訪問によるサービスの質の向上に努力している。医療機関との交流も行い、知識の習得にも力を入れている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 契約前に施設長が2回以上の自宅の訪問を行ったり、本人と家族にホームに来ていただき食事をともにしながら生活の様子を実際に見てもらい、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。入居後は、自宅周辺の様子を写真に納めて安心感を与えたり、細やかな心配りに徹している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者に対して尊敬の念を抱きながら処遇に当たっている。訪ねた日も職員が利用者と巻きずしを一緒に作り、労をねぎらい誇りを持てるように配慮していた。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前の生活歴を十分検討したうえでケアプランを作成し、希望に沿った暮らしに近づけるよう努めている。意向の把握が困難な場合でも、本人との会話を中心にして臨機応変に対応している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | アセスメントの際に本人や家族から要望を十分に聞き取り、介護計画を立てている。必要な関係者とも話し合いを重ね、利用者本位の介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の見直しは期間に応じて行っている。変化が生じた場合には本人、家族、必要な関係者とカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の希望する安心した生活が続けられるよう職員全員で努力している。買い物や墓参り、帰りたい要望がある利用者には家の周辺まで行くなど、柔軟な支援をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望するかかりつけ医を大切にし、夜間でも診てもらえる関係を築いている。利用者が入院するとホームからお見舞いに行き、安心して治療できるよう心温まる支援をしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時の契約の中で本人、家族の意見を聞き確認している。かかりつけ医についても本人や家族の意向を伝え話し合いを重ねている。病状が進んだ場合にも、家族から確認を取り職員も共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない | 利用者一人ひとりのプライバシーを守るよう職員間で研修をしている。言葉かけや行動についても対応の仕方に疑問を持った場合は、ミーティングを行いそのつど学んでいる。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースや体調に配慮しながらその日、その時の気持ちを重要視している。作業やレクリエーションは強制しないようにしている。個別性のある中にも思いやりのある支援をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の食べたい物を聞き一日の流れの中に楽しみを持たせている。バランスの良い旬の物を使った料理を、職員と会話しながら下ごしらえ、盛りつけ、後かたづけ等の役割を楽しみながら行っている。職員も同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気の中でさりげない支援をしていた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとりが希望する時間帯を選択できるようにしている。気の合う人と一緒に入って歌ったり、季節ごとに菖蒲や柚子を浮かべ季節感を楽しむことにも力を入れている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ホームの敷地内に畑があり、職員の見守りの下、利用者が中心となって野菜作りをしている。また、色紙を折る人、編み物をする人等、それぞれの人に声をかけ、張り合いが持てるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者の希望に沿ってドライブや買い物、神社参拝等、外出の支援をしている。外出の機会を多くすることで、地域との交流が深まることも支援の一つと考え、職員全員で取り組んでいる。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 朝6時前から夜10時まで鍵をかけず職員の見守りの中で安心できる空間づくりを支援している。職員は鍵をかけないケアの実践がいかに大切かをしっかりとらえ、外出の気配を察知すると周囲を1周する等の支援をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 地元の消防団や警察による災害時の避難方法の指導を定期的に受けている。職員間でも夜間の電話訓練をしたり、災害の準備点検に努めている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合った調理法を心がけ、栄養が偏らないように気をつけている。嫌いな物があれば同じ栄養素を持った代替りの食材を使い工夫している。水分を摂取する機会を多く設け、一日を通じて不足しないように配慮している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールには蔭ストーブがあり、天井扇が回っていて、冷暖房の風が利用者に直接当たらないように工夫してある。周囲の樹木の見える明るく広いホールには、笑い声が絶えず利用者の笑顔があふれていた。利用者を見守る職員も穏やかである。季節の花がロビーのあちこちに飾られていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族の希望を取り入れ、自宅で使用していた家具などを相談しながら配置している。手づくりの表札や写真、絵画の壁飾りが心を和ませている。夜、希望する人には畳に寝具を敷くなど、さまざまな支援をしている。 | | |

※  は、重点項目。